

今までの
支え合い活動を
活かして

個別避難計画 を作成してみませんか

近年、全国で大規模な災害が相次ぐなかで、高齢者や障害者といった、避難に支援が必要な方の多くが被害を受けていることが明らかとなっています。

流山市では、これまでの地域支え合い活動を活かしつつ、従来から取り組んできた救急情報カードの内容を拡充し、特に支援を必要とする方の個別避難計画の作成を進めています。

この計画を作成者・支援者等と共有し、日ごろから一人ひとりが避難行動について考え、地域のつながりを深めていくことにより、避難支援が円滑に行われる可能性を高めます。



作成の対象者は？

災害時に自力での避難が困難な方についての計画を作成します。具体的には、(1)～(3)に該当する方のうち、在宅で生活する方です。

- (1) 要介護3・4・5の認定を受けている方
- (2) 身体障害者手帳1・2級、療育手帳A・Aの1・Aの2、精神障害者保健福祉手帳1級の方
- (3) その他、自力での判断や避難が困難な方

対象ではない人が作っても良い？

この計画の作成をとおして、日ごろから一人ひとりが避難行動について考え、地域でのつながりを深めることを目的としています。

そのため、ご本人が作成に同意すれば、上記(1)～(3)の条件に該当しない方であっても個別避難計画を作成できます。

どうやって作るの？



- ・本人、家族で作る
- ・福祉専門職(※1)の支援で作る

- ・自治会など、地域で作ってみる(※2)

(※1) ケアマネジャー、相談支援専門員など
(※2) ご希望により、出前講座も行っています。

計画は何に使うの？



日頃から要支援者の情報を地域で把握し、関係を築いておくことが重要です。

避難の
声掛け、誘導

ひなさんぽ
(当事者を交えた避難訓練)

計画作成のポイント

個別避難計画は、「救急情報カード」に「生活支援シート①②③」を加えたものです。

本人の情報

緊急時の連絡先 (2人分)

医療に関する情報

治療中・過去の病気、かかりつけ医、人工透析、アレルギーなどについて書きます。「お薬手帳」のコピーもつけておきましょう。

ご近所・支援機関等

普段親しくしているご近所の方や、支援を受けている事業所名などを書きます。

伝えたいこと

災害時の配慮事項や、必要となる特別な医療行為などを書きます。

避難先、 浸水・土砂災害想定

ハザードマップを見ながら、安全な避難先を書きます。自宅の浸水・土砂災害想定も書いておきましょう。**安全が確保できる場合は、在宅避難(※3)を推奨します。**
(※3)自宅で避難生活を送ること

+ 救急情報カード +

避難支援等実施者

安否確認や情報伝達など、避難を支援する人を書きます。同居の家族・ご近所の方・自治会など、**なるべく身近な方を選ぶようにしてください。****必ず、避難支援等実施者本人の同意を得た上で書いてください。**避難支援等実施者は、法的な責任や義務を負うものではありません。**ご自身やご家族の安全を確保した上で、その時にできる限りの支援をお願いします。**

本人の情報

同意欄

個別避難計画を作成すること、共有することについて、同意または不同意を選びます。

必要な情報に

障害等級や介護度、移動方法、情報伝達方法、医療的ケア、配慮事項、避難生活で病気・障害により必要なものを書きます。

生活支援シート③

生活支援シート②

生活支援シート①

避難経路

避難する場所への経路を書きます。ハザードマップを見て、浸水・土砂災害が起きそうな道路は避けましょう。

避難生活で 助けてほしいこと

コミュニケーション、食事、トイレ・入浴などについて、できるだけ具体的に書きましょう。

避難生活のために 準備するもの

欠かせない薬、眼鏡、補聴器など、普段から備えておくものを書きます。

地域防災力向上のための講演会 (R7.1.28)



(※4) (一社)福祉防災コミュニティ協会代表理事